

# 3歳児 C 児 事例③

3歳児C児 事例③

児童名	性別	生年月日	担任	障がい・疾病等の状況	手帳の有無	
関 西子	女		2歳児：〇〇 □□	令和6年度 ・砂遊びが好き。 ・気持ちの切り替えが難しく、泣くと長引く。 令和7年度 ・新しいことや知らない人への、不安が大きい。 ・砂でいくつも型抜きをして、並べて遊ぶことが好き。	身体障害者手帳 ( 手帳級) 療育手帳 A ・ B1 ・ B2 精神障害者保健福祉手帳 1級・2級・3級 特別児童扶養手当 1級・2級	
		入所年月日	3歳児：△△			
		R6.4.1				
医療・相談機関		関係機関からの支援や情報				
令和5年度 ・〇区保健福祉センター		令和5年度 ・令和5年〇月〇日 1歳6か月児健康診査：「指差しが少ない」と指摘されるが、「3歳児健診まで様子を見ましょう。」と言われる。				
保護者の願い		支援の目標・内容				
令和7年度 ・友達と、同じことができるようになってほしい。 ・なんでも食べられるようになってほしい。		令和7年度 ・身の回りのことが見通しをもって自分でできるように、視覚支援を活用しながら自分でできたことを認め、励ましていく。 ・自分の思いや考えを表現できるように、保育者が気持ちを受け止め、友達に伝わるように仲立ちとなる。 ・いろいろな食べ物に興味や関心をもてるように、保育者や友達と一緒に食べることを楽しめる環境づくりを工夫する。				
この計画内容を確認しました。		令和	年	月	日	保護者名
(就学前確認欄) この支援計画書を就学先小学校に引継ぎすることに同意します。		令和	年	月	日	保護者名

3歳児C児 事例③

( 4 月 ~ 5 月 )

( 保育園 )

児童名 関 西子		家庭の様子：家庭での生活においては、大きな変化は見られないが、ほぼ毎日、登園を嫌がり大泣きするので、父親は困っている。			園長	担任(作成者)
クラス年齢 3 歳児						
項目	児童の姿	ねらい	具体的な支援・手立て	具体的な状況	評価・今後の課題	
生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>進級してから落ち着かない姿が多く見られ、特に、給食やおやつの時間になると「しんどい」と言って泣くことが増える。</li> <li>生活や遊びの活動の切れ目にも泣くことが多い。</li> <li>長時間保育の時間は、毎日決まった補助の先生と一緒に遊ぶことを喜んでおり、お迎えの時間まで機嫌よく過ごしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新しい環境に慣れ、安心して過ごす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>安心して過ごすことができるように、担任とのふれあいを大切にし、不安な気持ちを受け止める。</li> <li>担任が関われないときには他の保育者と連携し、同じ支援を心がける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>給食やおやつのときに「しんどい」と言って泣く姿は続いている。尋ねても、理由は言わない。</li> <li>活動の切れ目に泣くことは少なくなる。</li> <li>新しい担任には少し慣れてきて、少し笑顔が見られることも出てきた。</li> <li>長時間保育の時間には、リラックスして過ごし、お迎えのときも機嫌よく降園する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境（担任・保育室・クラスの人数等）が大きく変わったことが落ち着かない姿の原因であり、特に、給食やおやつの間には、自分の方を見てほしいという思いが強くなるのではないかと考えられる。</li> <li>新しい担任には安心している様子も見られるが、給食やおやつの際に見られる姿を受け止めていけるよう、ねらいを、より具体的に置き、次月の支援を行っていく。</li> <li>ねらいは達成した。</li> <li>机上に T シャツを置くことは保育者がしているので、自分で置いてみようと思えるように、具体的に言葉をかける。</li> <li>前後を間違えずに着れたときには、他の保育者と一緒に喜び合い、生活面での意欲を高めることで自信につなげていく。</li> </ul>	
認識	<ul style="list-style-type: none"> <li>身の回りのことは、自分でしようとしている。</li> <li>衣服の着脱も自分ですが、T シャツの前後を間違える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>T シャツの前後が分かる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>着脱の際は机を準備し、机上に予めしるしをつけておく。</li> <li>前後を間違わずに着ることができるように、保護者に、前面にイラストや文字がある T シャツを準備してもらったうえで、机上のしるしのある方に、T シャツの後ろの裾部分がくるように置く。</li> <li>前後を間違えずに着れたときには褒めて喜び合い、保護者にも共有する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>T シャツの前面には、イラストや文字があることが分かり、着ると「みて！みて！」と担任に伝えるようになる。</li> <li>担任に褒められることを喜び、笑顔を見せることが増える。</li> </ul>		
この計画内容を確認しました。		令和	年	月	日	保護者名

児童名 関 西子		家庭の様子：登園時に大泣きすることはなくなってきたが、園までの道や通り方にこだわりが出てきて、少しでも変わると「こっち!」「OOしたい!」と、自分の思いを通そうとするようになる。家での食事時は、泣くことはない。			園長	担任(作成者)
クラス年齢 3 歳児						
項目	児童の姿	ねらい	具体的な支援・手立て	具体的な状況	評価・今後の課題	
生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>給食やおやつのときに「しんどい」と言って泣く姿は続いている。</li> <li>何がしんどいかを尋ねられても首を振り、言葉では伝えない。</li> <li>担任には少し慣れてきて、少し笑顔が見られるようになり、活動の切れ目に泣くことは少なくなる。</li> <li>T シャツの前面には、イラストや文字があることが分かり、着ると「みて!みて!」と担任に伝えるようになり、前後を間違えずに着れたことを担任に褒められると、笑顔を見せることが増える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>給食、おやつ時間を安心して過ごす。</li> <li>自分で机の上にTシャツを置いて着る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>給食やおやつ時間に安心して過ごすことができるように、できる限り担任がそばについて声をかけて関わり、楽しく食事ができるような雰囲気をつくる。</li> <li>「しんどい」と表す心情を汲み取りつつ、苦手な食べ物があるかもしれないので、姿を観察して要因を探る。</li> <li>机上のしるしに合わせて、自分でTシャツを置くことができるように、「机にどうやって置いたらいいかな?」「Oちゃん置いてみてくれる?」など、自分でやってみようと思えるような言葉をかける。</li> <li>自分でしようとする姿を見逃さず、保育者間でもその様子を伝え合い、生活面の意欲を高める。</li> <li>自分でできた、という喜びを感じることができるよう、自分でしようとする姿を認め褒める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>担任には「これ(食材)きらい」「きのこ、いや」と言うようになり、「どこが、しんどいの?」と聞かれると、「(午睡起きは)ねむい・・・」と言うこともある。</li> <li>給食やおやつ時間に、担任がそばに来ることを喜び、笑顔がさらに増える。</li> <li>「こうやで」「できるで」と、T シャツを自分で机の上に置くことを進んでいる。</li> <li>イラストや文字が書いている方(T シャツの前面)を上にして置くので、着るとイラストが見えなくなり「あれ?」「まちがえた」と言っている。</li> <li>保育者がT シャツを置き直すと、「こうやの!」と言ってT シャツの前面を上に戻している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ねらいは達成した。</li> <li>自分の方を見てほしいという思いを受け止めてもらえたことで、担任には安心感をもつようになった。</li> <li>生活における困り(苦手な食べ物があることや、まだ眠いなど)を、言葉で伝えることができるように、次月は、思いを理解し言葉に置き換えながら引き出していく支援を考える。</li> <li>一定、ねらいは達成した。</li> <li>担任との関係性が深まり、意欲的な姿を多く見せるようになってきている。</li> <li>T シャツの前は分かるようになったが、そのためにどうやって机の上に置けば、前後間違えずに着ることができるのかが分からない様子である。認識面の弱さとともに、こだわる姿も見えてきている。しかし、こだわる姿に焦点を置くのではなく、視覚支援を用い、分かりやすい手立てを工夫することで、より意欲を高めていく。</li> </ul>	
この計画内容を確認しました。		令和 年 月 日			保護者名	

3歳児C児 事例③

( 7 月 ~ 8 月 )

( 保育園 )

児童名 関 西子		家庭の様子：登園時のルートに対するこだわりは、暑さも関係あるのか朝よりも夕方の降園時に見られるようになる。朝よりは、夕方のほうが父親の気持ちに余裕があるととのことで、付き合うと機嫌よく家まで帰れている。			園長	担任(作成者)
クラス年齢 3 歳児						
項目	児童の姿	ねらい	具体的な支援・手立て	具体的な状況	評価・今後の課題	
言語	<ul style="list-style-type: none"> <li>担任には「これ(食材) きれい」「きのこ、いや」と言うようになり、「どれなら食べれる?」と聞かれると「これ」と指差して伝える。</li> <li>「どこが、しんどいの?」と聞かれると、「(午睡起きは)ねむい・・・」と言い、「まだ眠かったんやね。」と言われると頷き、おやつを食べようとする気持ちになる。</li> <li>給食やおやつ時間に、担任がそばに来ることを喜び笑顔がさらに増える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>担任以外の保育者にも、苦手な食べ物のことや、自分のことを伝えようとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>担任以外の保育者にも、安心して自分の思いを出せるように、保育者間の連携を密にし、子ども理解に努める。</li> <li>言葉として発することはなくても、しぐさや表情から思いを汲み取りながら、言葉に置き換えていく。</li> <li>保育者が丁寧に応じることで、自ら話したい、という気持ちを育てていく。</li> </ul>			
認識	<ul style="list-style-type: none"> <li>「こうやで」「できるで」と、Tシャツを自分で机の上に置くことを進んでしている。</li> <li>Tシャツの前面を上にして置くので、着るとTシャツのイラストが見えなくなり「あれ?」「まちがえた」と言っている。</li> <li>保育者がTシャツを置き直すと、「こうやの!」と言ってTシャツの前面を上に戻して、そのまま着るので、また前後が逆になり「あれ?」と言う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>机の上に貼ってあるイラストのとおり、Tシャツを机の上に置く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>机の上のしるし(Tシャツの裾部分が見える)から、Tシャツの後ろ面(絵柄がないほう)が分かるイラストに変えて机の上に貼り、「同じように置けるかな」「どうやって置けばいいかな」など、自分でやってみようと思えるような言葉をかける。</li> <li>自分でしようとする姿を見逃さず、自分でできた、という喜びを感じることができるよう、認め褒める。</li> </ul>			
この計画内容を確認しました。		令和 年 月 日		保護者名		

3歳児 C 児 事例③ ポイント挿入

在園期間中、この1枚に年度ごとに追記する。

児童名	性別	生年月日	担任	障がい・疾病等の状況	手帳の有無
		入所年月日	2歳児：〇〇 □□ 3歳児：△△	令和6年度 ・砂遊びが好き。 ・気持ちの切り替えが難しく、泣くと長引く。 令和7年度 ことや知らない人への、不安が大きい。 くつも型抜きをして、並べて遊ぶことか	3級)
<p>関係諸機関及び担当者名を記入する。病院であれば主治医名、福祉機関であれば担当者名を記載し、連携がとりやすいように、連絡先も記載しておくとう望ましい。</p>			<p>「医療・相談機関」と「関係機関からの支援や情報」欄は、横を揃えて書く。</p>		
医療・相談機関			関係機関からの支援や情報		
<p>令和5年度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>〇区保健福祉センター (〇〇保健師) 06-6XX-XXXX</li> </ul>			<p>令和5年度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和5年〇月〇日 1歳6か月児健康診査：「指差しが少ない」と指摘されるが、「3歳児健診まで様子を見ましょう。」と言われる。</li> </ul>		
保護者の願い			支援の目標・内容		
<p>令和7年度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>友達と、同じことができるようになってほしい。</li> <li>なんでも食べれるようになってほしい。</li> </ul>			<p>令和7年度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>身の回りのことが見通しをもって自分でできるように、視覚支援を活用しながら自分でできたことを認め、励ましていく。</li> <li>自分の思いや考えを表現できるように、保育者が気持ちを受け止め、友達に伝わるように仲立ちとなる。</li> <li>いろいろな食べ物に興味や関心がもてるように、保育者や友達と一緒に食べることを楽しめる環境づくりを工夫する。</li> </ul>		
<p>この計画内容を確認しました。</p>			<p>令和 年 月 日 保護者名</p>		
<p>(就学前確認欄) この支援計画書を就学前小学校に引継ぎすることに同意します。</p>			<p>令和 年 月 日 保護者名</p>		

関係諸機関及び担当者名を記入する。病院であれば主治医名、福祉機関であれば担当者名を記載し、連携がとりやすいように、連絡先も記載しておくとう望ましい。

「医療・相談機関」と「関係機関からの支援や情報」欄は、横を揃えて書く。

診断名がなくても、子どもの特性の他に得意なことも年度ごとに記載しておくとう、共通認識が図られ子ども理解につながる。

時系列、年度ごとに、年月日も含めて、客観的文章で記載する。

支援の内容は教育的意図をもった働きかけを具体的に記載する。

就学前教育カリキュラム P55.56  
「3歳児カリキュラム」参照

# 3歳児C児 事例③ (ポイント挿入)

家庭での子どもの様子は、支援につながる大切な情報なので、必ず記載する。保護者との会話で聞いたことであっても、大切な情報の1つである。施設での子どもの姿を保護者と共有し、ともにできる手立てを考える。

「具体的な状況」を踏まえて、「具体的な支援・手立て」がどうであったか、ということの評価を書く。

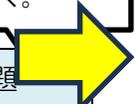
児童名 関 西子		家庭の様子：家庭での生活においては、大きな変化は見られないが、ほぼ毎日、登園を嫌がり大泣きするので、父親は困っている。			
子どもの姿はプラスの姿も含めて具体的に書く。		次 <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">4</span> のサイクルまでに達成できそうな「ねらい」をスモールステップで立てる。評価しやすいように、言い切りの文章にする。			
支援・手立てを行った結果、対象児にどのような状況が見えているのかを具体的に記載する。		「具体的な状況」を踏まえて、「具体的な支援・手立て」がどうであったか、ということの評価を書く。			
項目	児童の姿	ねらい	具体的な支援・手立て	具体的な状況	評価・今後の課題
生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>進級してから落ち着かない姿が多く見られ、特に、給食やおやつ<span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">の時間になると「しんどい」と言って泣くことが増える。</span></li> <li>生活や遊びの活動の切れ目にも泣くことが多い。</li> <li>長時間保育の時間は、毎日決まった補助の先生と一緒に遊ぶことを喜んでおり、お迎えの時間まで機嫌よく過ごしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新しい環境に慣れ、安心して過ごす。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-top: 10px;">       クラスでの姿と、長時間保育(夕方)での姿の違いを「なぜ？」と考えることが大切。     </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>安心して過ごすことができるように、担任とのふれあいを大切にし、不安な気持ちを受け止める。</li> <li>担任が関われないときには他の保育者と連携し、同じ支援を心がける。</li> </ul> <div style="border: 1px solid orange; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-top: 10px; text-align: center;">       就学前教育カリキュラム P55 「3歳児カリキュラム」参照     </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>給食やおやつ<span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">のときに「しんどい」と言って泣く姿は続いている。尋ねても、理由は言わない。</span></li> <li>活動の切れ目に泣くことは少なくなる。</li> <li>新しい担任には少し慣れてきて、少し笑顔が見られることも出てきた。</li> <li>長時間保育の時間には、リラックスして過ごし、お迎えのときも機嫌よく降園する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境(担任・保育室・クラス<span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">の人数等</span>)が大きく変わったことが落ち着かない姿の原因であり、特に、給食やおやつ<span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">の時間には、自分の方を見てほしいという思いが強くなるのではないかと考えられる。</span></li> <li>新しい担任には安心している様子も見られるが、給食やおやつ<span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">のときに見られる姿を受け止めていけるよう、ねらいを、より具体的に置き、次月の支援を行っていく。</span></li> </ul>
認識	<ul style="list-style-type: none"> <li>身の回りのことは、自分でしようとしている。</li> <li>衣服の着脱も自分でするが、Tシャツの前後を間違える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Tシャツ<span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">の前後がわかる。</span></li> </ul> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-top: 10px;">       「ねらい」は多くても2つくらいが適切である。短いサイクルで達成できることで、子どもも保育者も達成感を感じることができる。     </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>着脱の際は机を準備し、机上に予めしるしをつけておく。</li> <li>前後を間違わずに着ることができるように、保護者に、前面にイラストや文字があるTシャツを準備してもらったうえで、机上のしるしのある方に、Tシャツの後ろの裾部分がくるように置く。</li> <li>前後を間違えずに着れたときには褒めて喜び合い、保護者にも共有する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Tシャツ<span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">の前面には、イラストや文字があることが分かり、着ると「みて！みて！」と担任に伝えるようになる。</span></li> </ul> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-top: 10px;">       具体的な評価をしておくことで、次月につなげていける。     </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ねらいは達成した。</li> <li>机上にTシャツを置くことは保育者がしているので、自分で置いてみようと思えるよう<span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">に、具体的に言葉をかける。</span></li> <li>前後を間違えずに着れたときには、他の保育者と一緒に喜び合い、生活面での意欲を高めることで自信につなげていく。</li> </ul>
この計画内容を確認しました。					

支援と手立ては、人的・物的環境面と、援助面の両面から考えることが望ましい。

できたことを認めたり、共に喜ぶことは、自信になり次につながる援助である。

下線部分の姿を、「なぜ？」の視点から見直すことが子ども理解につながり、アセスメントの方法を探っていくことができる。

- かまってほしい
- 好きな先生がない
- 好きな先生がいる



「ねらい」が達成できたのか、できなかったのか。できなかったのであれば、その原因は何か、次にどのように改善していくのか、ということ必ず記載する。

前月からのつながり

児童	関 西子	家庭の様子：登園時に大泣きすることはなくなってきたが、園までの道や通り方にこだわりが出てきて、少しでも変わると「こっち!」「OOしたい!」と、自分の思いを通そうとするようになる。家での食事時は、泣くことはない。
年齢	3 歳児	スモールステップで、具体的なねらいを立てる。

項目	児童の姿	ねらい	具体的な支援・手立て	具体的な状況	評価・今後の課題
生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>給食やおやつときに「しんどい」と言って泣く姿は続いている。</li> <li>何がしんどいかを尋ねられても首を振り、言葉では伝えない。</li> <li>担任には少し慣れてきて、少し笑顔が見られるようになり、活動の切れ目に泣くことは少なくなる。</li> <li>T シャツの前面には、イラストや文字があることが分かり、着ると「みて!みて!」と担任に伝えるようになり、前後を間違えずに着れたことを担任に褒められると、笑顔を見せることが増える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>給食、おやつ時間を安心して過ごす。</li> <li>自分で机の上にTシャツを置いて着る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>給食やおやつ時間に安心して過ごすことができるように、できる限り担任がそばについて声をかけて関わり、楽しく食事ができるような雰囲気をつくる。</li> <li>「しんどい」と表す心情を汲み取りつつ、苦手な食べ物があるかもしれないので、姿を観察して要因を探る。</li> <li>机上のしるしに合わせて、自分でTシャツを置くことができるように、「机にどうやって置いたらいいかな?」「Oちゃん置いてみてくれる?」など、自分でやってみようと思えるような言葉をかける。</li> <li>自分でしようとする姿を見逃さず、保育者間でもその様子を伝え合い、生活面の意欲を高める。</li> <li>自分でできた、という喜びを感じるように、自分でしようとする姿を認め褒める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>担任には「これ(食材) きらい」「きのこ、いや」と言うようになり、「どこが、しんどいの?」と聞かれると、「(午睡起きは)ねむい・・・」ということもある。</li> <li>給食やおやつ時間に、担任がそばに来ることを喜び笑顔がさらに増える。</li> <li>「こうやで」「できるで」と、T シャツを自分で机の上に置くことを進んでいる。</li> <li>イラストや文字が書いてあるほう(Tシャツの前面)を上にして置くので、着るとイラストが見えなくなり「あれ?」「まちがえた」と言っている。</li> <li>保育者がTシャツを置き直すと、「こうやの!」と言ってTシャツの前面を上に戻している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ねらいは達成した。</li> <li>自分の方を見てほしいという思いを受け止めてもらえたことで、担任には安心感をもつようになった。</li> <li>生活における困り(苦手な食べ物があることや、まだ眠いなど)を、言葉で伝えることができるように、次月は、思いを理解し言葉に置き換えながら引き出していく支援を考える。</li> <li>一定、ねらいは達成した。</li> <li>担任との関係性が深まり、意欲的な姿を多く見せるようになってきている。</li> <li>Tシャツの前は分かるようになったが、そのためにどうやって机の上に置けば、前後間違えずに着ることができるのかが分からない様子である。認識面の弱さともに、こだわる姿も見えてきている。しかし、こだわる姿に焦点を置くのではなく、視覚支援を用い、分かりやすい手立てを工夫することで、より意欲を高めていく。</li> </ul>

成長と課題を「児童の姿」にきちんと書くことで、保護者とともに、成長を確認し、次の課題に向けた支援を考えることができる。

自信につなげていけるねらいを、スモールステップで立てる。

「具体的な支援・手立て」は、教育的意図をもった働きかけを具体的に記載する。

「家庭の様子」と「具体的な状況」の二重下線部分には、家庭と施設での姿の一致が見られる。

「生活」から「言語」「認識」面の支援へ。

この計画内容を確認しました。

保護者名

次の月につなげることを意識して、項目が変わる理由を、この欄に記入しておく。

# 3歳児C児 事例③ (ポイント挿入)

7月～8月

こだわりに関する変化が見られていることを、  
今後も気に留めていくことが大切。

保育園)

個別指

前月の「具体的な状況」に記載した姿と同じ内容を、より具体的に書くことで、つながりのある計画になる。

家庭の様子：登園時のルートに対するこだわりは、暑さも関係あるのか朝よりも夕方の降園時に見られるようになる。朝よりは、夕方のほうが父親の気持ちに余裕があるとのことで、付き合つと機嫌よく家まで帰れている。

支援や手立ての内容は具体的に書くことで、担任間はもちろん、補助等でクラスに入る保育者とも共有でき、どの職員であっても同じ支援をすることができる。

前月からの  
つながり



項目	児童の姿	ねらい	具体的な支援・手立て	具体的な状況	評価・今後の課題
言語	<ul style="list-style-type: none"> <li>担任には「これ(食材) きれい」「きのこ、いや」と言うようになり、「どれなら食べれる?」と聞かれると「これ」と指差して伝える。</li> <li>「どこが、しんどのいの?」と聞かれると、「(午睡起きは)ねむい・・・」と言い、「まだ眠かったんやね。」と言われると頷き、おやつを食べようとする気持ちになる。</li> <li>給食やおやつ時間に、担任がそばに来ることを喜び笑顔がさらに増える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>担任以外の保育者にも、苦手な食べ物のことや、自分のことを伝えようとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>担任以外の保育者にも、安心して自分の思いを出せるように、保育者間の連携を密にし、子ども理解に努める。</li> <li>言葉として発することはなくても、しぐさや表情から思いを汲み取りながら、言葉に置き換えていく。</li> <li>保育者が丁寧に応じることで、自ら話したい、という気持ちを育てていく。</li> </ul>	<p>「具体的な支援・手立て」を行った中での子どもの姿を具体的に記載する。</p> <p>この欄には姿のみ記載し、評価や課題は記載しない。</p>	<p>「具体的な状況」を踏まえて、「具体的な支援・手立て」が子どもの姿やねらいに合っていたのかどうかを、評価として記載する。上手くいったことも評価としてきちんと記載しておくことが重要。</p>
認知	<ul style="list-style-type: none"> <li>「こうやで」「できるで」と、Tシャツを自分で机の上に置くことを進んでしている。</li> <li>Tシャツの前面を上にして置くので、着るとTシャツのイラストが見えなくなり「あれ?」「まちがえた」と言っている。</li> <li>保育者がTシャツを置き直すと、「こうやの!」と言ってTシャツの前面を上に戻して、そのまま着るので、また前後が逆になり「あれ?」と言う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>机の上に貼ってあるイラストのとおり、Tシャツを机の上に置く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>机上のしるし(Tシャツの裾部分分かる)から、Tシャツの後ろ面(絵柄がないほう)が分かるイラストに変えて机の上に貼り、「同じように置けるかな」「どうやって置けばいいかな」など、自分でやってみようと思えるような言葉をかける。</li> <li>自分でしようとする姿を見逃さず、自分でできた、という喜びを感じることができるよう、認め褒める。</li> </ul>	<p>新たに増えてきた子どもの姿があれば記載しておくことで、次のねらいにつなげていける。</p>	<p>「ねらい」が達成できたのか、できなかったのか。できなかったのであれば、その原因は何か、次にどのように改善していくのか、ということ必ず記載する。</p> <p>ねらいが達成できたときは、次の方向性(ねらいとして置こうと考えること)について記載しておくことで、計画がつながっていく。</p>
この計画内容を確認しました。				保護者名	

「生活」から「言語」面への支援へ。

ねらいに対して、人的援助と環境的援助の2点の方向から支援を考えるように心がける。

「生活」から「認知」面への支援へ。

施設でも、自分の思いを通そうとする姿が見られるようになってきている。

褒められる経験がたくさんできるような支援を考え、意識して褒めることで、自信をもたせることができ、保育者自身も、子どもの成長を喜べることで、次の支援につながっていく。